



十一月最後の土曜日の夕暮前。窓の外を見ると晴れたので、数日前の自宅近くの田んぼ道で夕陽に映えるスキが綺麗だったのを思い出して 早速カメラ片手に外に飛び出してこの写真を撮りました。

晩秋のススキ

ススキは秋の七草の一つで、昔からカヤ拭き屋根の材料、飼料、堆肥などに利用されていたそうです。

花言葉は勢力・活力。大変生命力が強く、強靱な植物だからこのような花言葉になったのでしょうか。

ちなみに秋の七草は、ハギ(萩)、ススキ(薄)、尾花、クズ(葛)、ナデシコ(撫子)、オミナエシ(女郎花)、フジバカマ(藤袴)、キキョウ(桔梗)

春の七草は厳しい冬を乗り越えるための食べる七草ですが、秋の七草は鑑賞する七草なのでそうです。

ヨシナカ新聞

1 2 月号
発行所
㈱北陸ヨシナカ
大阪本社工場
TEL:0729-77-8861
FAX:0729-76-0634

心に留めておきたい言葉

元松政経塾塾頭の上甲晃氏が今年9月の講演で松下幸之助氏について話された内容を一部紹介させていただきます。松下政経塾に最初から着任した上甲氏が入社当時話の中で「三つの要点」というのがあったそうです。それは、

①「ええ会社に入ったな」と思い込む。まず良いと決めてかかる事。

②「する仕事を好きになる、好きになってみせる」。「目的」はあくまでも「手段」、仕事に立って人を楽しませ、役に立てる事、天職として仕事に取り組む。

③「信用第一」お金は失っても取り戻せるが、一度失った信用はなかなか取り戻せない。約束を守る事・信守を一致させる。

毎日の仕事でもつい忘れがちになってしまいがち。大切な約束を守り、お客様に満足していただく。私達北陸ヨシナカ一同もこの思いを忘れないと思っております。

参考資料：「ニュースレター『ウイスキーサークル』創刊号(ウジタオートサロン発行)」

気が付けば12月。師走は何かと忙しくあっという間に過ぎてしまいます。そして12月といえば忘年会シーズン。寒い季節なので鍋料理を食べられる機会も多いことかと思いますが、今回は河豚(ふぐ)について調べてみました。

河豚の呼び名は地域によって変わります。山口県の下関では「ふく」。ふぐは「不遇」に繋がるからということから福にあやかりたいということから。大阪では「てっぽう」。これはたまに当たる。『たま』と『玉』をかけているんですね。さすが洒落の大阪。千葉県では「富くじ」。めったに当たらないところから命名されたそう。

冬の鍋といえば

フグは高タンパク、低カロリーの健康食。いくら食べてもカロリーが気になりません。皮にはコラーゲンがたっぷり含まれており、お肌に潤いを与えるなど美容の効果も期待でき、さらに冷え性にも効くとか。特に女性にとってはとても有りがたい食べ物ですね。さあ、みんなでフグをいっぱい食べましょう。その前に財布の中身を確認して。私は。。。あああ(涙)。

ステンレス豆知識

今回は熱処理条件を取り上げることにしました。オーステナイト系、フェライト系、マルテンサイト系の熱処理条件と好ましくない熱処理温度帯とその時に発生しやすい不具合についてまとめてみました。先々月号から表が続いていますね。いや、偶然ですよ、偶然。

参考資料：「事例で探すステンレス鋼選び「工業調査会」

	鋼種	好ましい熱処理条件	好ましくない熱処理と不具合
オーステナイト系 ステンレス鋼	SUS201 & 202	950~1100℃、急冷 (固溶化熱処理)	650℃前後で長時間加熱するか、溶接熱が加わると鋭敏化組織となり粒界腐食しやすくなる。
	SUS304 & 316		
	SUS310S		
	SUS321 & 347		
フェライト系 ステンレス鋼	SUS405	780~850℃、急冷	500℃前後で長時間加熱すると、粒界腐食しやすくなる。475℃前後で焼き戻した場合は脆化現象が発生し脆くなる。
	SUS430 & 434		
	SUS444		
マルテンサイト系 ステンレス鋼	SUS403 & 410 & 420J2	950~100℃焼入 700~750℃焼き戻し	600℃前後で焼き戻しすると、引張強度が80kgf/mm2程度の低強度となり、粒界腐食あるいは粒界力腐食割れが発生しやすくなる。
	SUS431	1000~1050℃焼入 630~700℃Cy焼き戻し	
	SUS440A ~ C	1000~1050℃焼入 150℃焼き戻し	